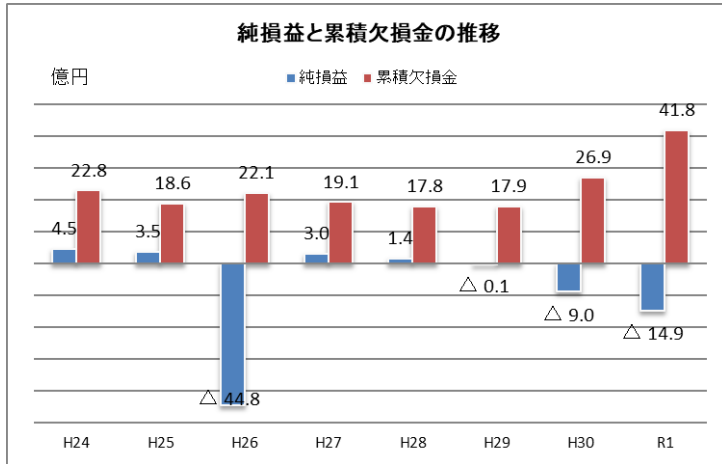


令和元年度 新潟市病院事業会計決算の概要

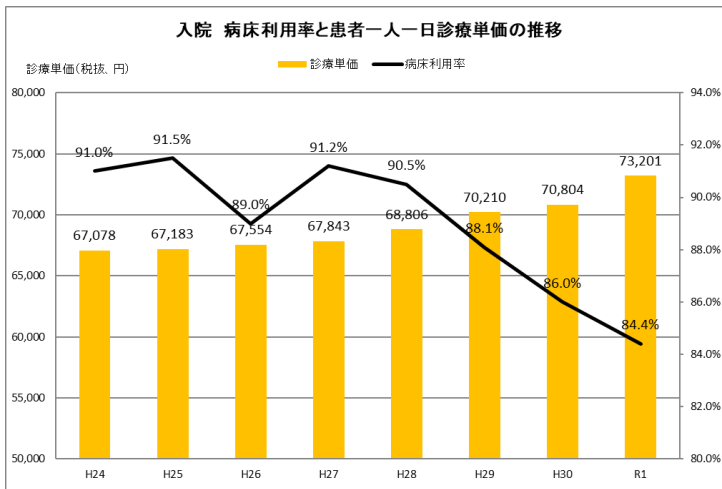
令和元年度の新潟市病院事業（税抜）は、事業収益 245 億 5,408 万円余りに対し事業費用 260 億 4,129 万円余りとなり、差引 14 億 8,721 万円余りの純損失を生じる赤字決算となりました。



それにより、累積欠損金は 41 億 8,113 万円余りとなっています。

本業の決算である医業収支について、**医業収益**は平成 30 年度決算に比べて 5 億 1,504 万円余りの増となりました。

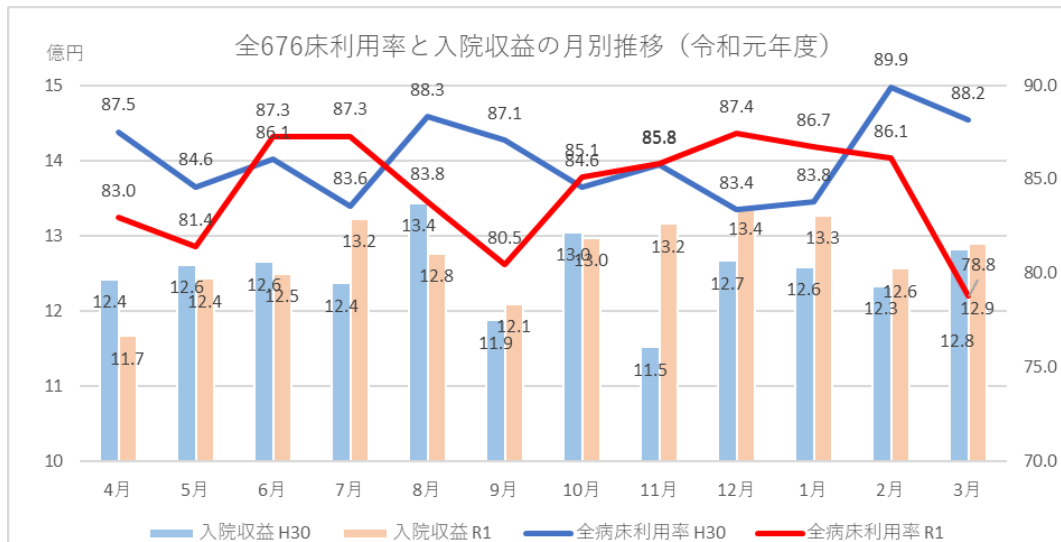
そのうち入院収益は、1 日あたり患者数が 11 人減となった一方、単価は 2,398 円増となり 2 億 6,155 万円余りの増でした。また、外来収益は、1 日あたり患者数が 1 人増、単価は 1,385 円増となった結果、2 億 5,900 万円余りの増となりました。



医業費用は、平成 30 年度決算に比べ 10 億 3,956 万円余りの増となりました。主な要因は給与費が 3 億 9,455 万円余り、材料費 3 億 2,078 万円余り、減価償却費 3 億 6,619 万円余りの増となります。また、増税影響などにより雑損失が 1 億 5,672 万円の増となりました。

元年度は、平成 29 年度以降の働き方

改革の影響による入院患者数の減少傾向が収支悪化の一因でもありと考へ、今後 5 年程度の収支見通しと、具体的な患者確保に係る数値目標を示して経営改善に努めました。その結果、令和 2 年 2 月までは取り組みの効果がありましたが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行により収支改善には至りませんでした。元年度決算では、3 月単月で 3 億円程度収支



が悪化したと試算しています。

この状態が今後も続くと、2 年度決算はさらに悪化する可能性があります。